

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	環境厚生常任委員会	会議場所 第3委員会室	
		担当職員 山末	
日 時	平成29年10月30日(月曜日)	開 議	午前 10 時 00 分
		閉 議	午前 11 時 36 分
出席委員	◎小川 ○富谷 酒井 平本 齊藤 菱田 小島 馬場		
理事者 出席者			
事務局	片岡事務局長、鈴木議事調査係長、山末		
傍聴者	市民 0名	報道関係者 0名	議員0名

会 議 の 概 要

1 開 議

2 事務局日程説明

3 案 件

(1) 子どもの貧困について ・意見交換会について

<小川委員長>

子ども食堂の活動団体との意見交換会について、当日にお聞きしたい内容をまとめていきたい。こどもみらい食堂の概要については、事前に資料を配付している。意見はあるか。

<齊藤委員>

どのような人が来ているのかをまず知らなければならない。聞きづらいことだが、それに答えていただけるのかどうか。親や家庭の状況などについて、それぞれどのような問題を持っているのか。また、日頃の食生活がどうなっているのか。子ども食堂に来ているということは、コンビニの弁当やカップ麺ばかり食べているのではないかと想像する。

<小川委員長>

事前に問題意識を共有しておきたいと思う。他に意見はあるか。

<齊藤委員>

行政としてどのように手を差し伸べるべきか。また、活動団体は手を差し伸べて欲しいと考えているのかどうか。各個人が自立するためにはどういったことが必要か。

<馬場委員>

親の就労の場をどのように提供しているのか。また、それと関わってどのような行政的な施策があるのか、方向性が出されているのか。プライバシーにも関わってくるが、ダブルワークや正規雇用、非正規雇用の労働実態が分かればありがたい。子ども食堂と教育委員会が連携した学習支援のプログラムがあるのかどうかも聞きたい。

<小川委員長>

当日にお聞きしたいと思う。

<齊藤委員>

実施する側への要望だが、希望あふれる施設として、貧困家庭やひとり親家庭の子どもであっても努力をすれば報われるという気持ちを持って勉学、生活していけるような教育を進めてほしいと思う。子ども食堂が目指していることを聞きたい。

<小川委員長>

子どもみらい食堂は子どもたちに対して希望のあふれる取り組みをされていると思う。目指していることを聞きたい。

<菱田委員>

それぞれの団体や人によって取り組み方は違うと思う。当委員会は子どもの貧困をテーマに活動しているが、これは要するに、将来を担う子どもたちを地域がどう育てていくのかということである。例えば、普段1人で生活している子どもが多くの人たちの中で生活できる環境をつくることだと思う。今後、どのような取り組みをしたいと考えているのかをお聞きしたい。食事の提供の場をつくることによって、地域と子どもが関わる場をつくろうとしているのか。また、孤食や引きこもり等のことも考えて取り組まれているのかなど、取り組まれている団体の思いを聞きたい。

<平本委員>

活動を始められて日が浅いということだが、活動の中で見えてきた課題や、学習支援を含めて関係所管とのどのような連携を望まれるのか、また、連携を望まれないのかなども聞きたい。

<小川委員長>

他に聞きたいことや事前に知りたいことがあれば。

<酒井委員>

相手方にお聞きすることではないが、既に全国で活動されている子ども食堂には、いろいろな課題や特色があると思う。子どもの貧困にターゲットを絞って食の提供をしているところ、居場所づくりのために開催しているところ、生活指導的なことを考えているところなど、いろいろな子ども食堂があると思う。そういったことを調べた上で現場に行った方がよいと思う。

<小川委員長>

いろいろな取り組みがある。各委員でそれぞれ調べるのか、資料を取り寄せるのか。また、意見交換会は現地に行くのではなく、こちらに来ていただくことになっている。

<酒井委員>

こちらで話を聞くのであれば、なおさら他の事例をきちんと調べておかなければ意見交換として有意義なものにならないと思う。各自で調べているのかもしれないが、共通認識を持っておかなければならない。さまざまな記事があるが、最低限これは見ておこうというものをつくっておいた方がよいのではないか。

<小川委員長>

各委員で持っている情報を共有しておきたいと思う。

<富谷副委員長>

子ども食堂は全国的に差があり、全国のいろいろな先進地を勉強するよりも、同じような条件で実施されているところを参考にすることがベターなのではないかと思う。子どもみらい食堂は、利用者の食事の状況などを把握するというところまでは至っていないのではないかと思う。子どもが自由に出入りしたり、野菜づくりの体験をしたりするような取り組みだと思う。

<酒井委員>

先進地と比べてということではなく、例えば、食事の指導にまで踏み込むのがよいのかどうかという議論が既にあるということなどを確認しておかなければならない。他の子ども食堂でも既に言われていることや地域の連携などは、聞く前に調べれば分かることなので、この記事は読んでおいた方がよいというものをいただきたい。

<小川委員長>

子ども食堂に関する新聞記事等の情報を事前に整理してレターケースに配付したい。

<酒井委員>

既に各委員が調べている記事のURL等を集約して共有できる状態にしてもらえればと思う。必ずしも印刷物である必要はない。メールで記事の一覧を送っていただくような形にすれば手間が省けると思うがどうか。

<小川委員長>

そのような形で進めたい。各委員から情報があれば送付していただき、こちらでまとめておく。

<齊藤委員>

子ども食堂を実施しているところは他の活動も行っているところが多い。補助金が欲しいと言われていたり、いいことばかり発表されることも考えられるので注意しなければならないと思う。

<馬場委員>

亀岡市内で活動されている全ての団体に来ていただくのか。

<小川委員長>

以前の月例常任委員会で、エンジェルホームとこどもみらい食堂の2カ所を抽出した。その中で、まずはこどもみらい食堂の活動団体と意見交換を行う。どのように子ども食堂を立ち上げ、どのような思いでされているのかなど、先ほどの意見を集約し、有意義な意見交換にしたい。

・今後の取り組みについて

<小川委員長>

今後の取り組みについて、「子どもの貧困対策に関する提言」がどのように反映されるのかを確認すべき、また、担当部署の考え方や提言書だけでは伝わりにくい部分を共有するために意見交換の場を持つてはどうかという意見があった。意見交換を行う時期について意見をいただきたい。

<酒井委員>

12月定例会よりも前に行っていただきたい。提言を反映させるという考えがなければ次の予算に入らない。12月を過ぎるとどんどん遅れていく。子ども食堂の活動団体との意見交換会よりも先にできればよいと考える。

<小川委員長>

11月から12月頃の予算の調整を行う前段階で担当部署から次年度の方向性を聞くことは難しいと聞いている。1月以降に執行部と調整して意見交換会を行いたいと思うがどうか。

<酒井委員>

時期について意見を求められていたのかと思ったが、1月以降で調整されているのか。

11月にこどもみらい食堂との意見交換会を行い、12月定例会で何もせずに1月に意見交換を行うとなれば何も準備ができない。有意義な意見交換会ができるように、事前に一度委員会を開催しておかなければならないと思う。

<小川委員長>

以前の月例常任委員会で、11月から12月で行ってはどうかという意見があったため再度お聞きしたが、1月以降でなければ調整できないように聞いている。それまでに準備をしておかなければならないこともあると思う。

<馬場委員>

酒井委員と同意見で、早くした方がよいと考える。執行部が拒否すればそれまでの話だが、予算は別として、執行部がどのように考えているのかについて共通認識を持った上で12月定例会に臨んだ方がよいのではないか。

<菱田委員>

1月は、財政当局の査定が終わり、一定の方向性が出てくる時期だと思う。担当部署が提案し、財政当局で査定されたものがその後の市長査定で復活するというのも考えられるので、そのあたりをうまく狙うのであれば1月でもよいと考える。しかし、執行部としては議案として出すものを事前に言えないという実情もある。議案としては3月定例会まで出てこない。その過程をどのように表に示していただけるのか。現在の考えを出していただけるのであれば1月でもよいと思うが、それが出てこないのであれば1月まで待つ必要はないと思う。そのあたりを正副委員長と事務局で調整いただければと思う。

<小川委員長>

正副委員長と事務局で調整することとしてよいか。

<酒井委員>

執行部との意見交換をする前に委員会で準備をしておかなければならないと思う。その日程は決められるのではないか。

<小川委員長>

次回の月例常任委員会で話し合うこととするか。

<酒井委員>

次回の月例常任委員会であれば、子ども食堂の実施団体との意見交換会の終了後ということか。それならば、その時に何を話し合うかということはある程度決めておき、それぞれの委員が準備をできるようにしておいた方がよいと思う。

<菱田委員>

先ほどは予算の話をしたが、その前段階として環境厚生常任委員会が提言したことに関しての受け止め方、それに対する理事者側の今後の動き、プログラム、方策をどのように考えているのかなどの意見交換をしてはどうか。委員会と理事者のベクトルが違えば、こちらが求めているものと向こうが調整したものが違ってくるので、そのあたりの方向性やボリュームをしっかりと見ていく。その中で、どのような予算の組み方をしていくのかということを知ったり、こういったものはどうかという提案をしたり、理事者からも意見を求められたりするなどして意見交換を進めてはどうか。

<小川委員長>

方向性の確認をしてはどうかという意見があったがどうか。

<平本委員>

市長の反応はわかっているが、担当部署の受け止め方などが全く聞けていないので、調整の意味では必要と考える。

<富谷副委員長>

担当課が方向性を常任委員会で報告できるのかが疑問である。執行部の中で調整できていることは委員会に報告できるが、その過程の話までできるのか。

<馬場委員>

11月は各部の予算要求を汲み上げていく段階なので、その時期に意見交換を行うということは、取りも直さず市長に提出した提言について、議会の意思は固いということ再度示すことになり、1月に意見交換を行うということになれば、市長査定の前の段階での考えを聞くということになると思う。どちらも行えばよいと考えるが、そのあたりは皆の判断に任せる。

<菱田委員>

富谷副委員長の意見について、これまで出てきたパターンは、例えば、議会で議員が質問、提案したことに対してや、国の施策の流れに沿ってこういうことを決めたということが出てくる。今回の場合は当委員会から提案していることなので、それに対してこう決めたと出された内容の思いがすれ違ってはおかしいと思う。その前段階として、担当部署としてどう受け止めているか、これからどのような方向で進もうとしているか、このような考え方はどうか、ということからでもよいと思う。そのようにして積み上げていかなければ、こちらは言い放しで向こうは決めてから答えを出してくるということではおかしいと思う。議論をする場として、意見交換を行い、一緒に積み上げていくことが大事なのではないか。それは提言した側の責任でもあると思う。責任を果たす意味では理事者がつくり上げる前に、それを一緒につくる作業に加わっていくことが必要と考える。

<小川委員長>

積み上げていく前の段階での意見交換として調整したいと考えるがどうか。

<小島委員>

菱田委員の意見と同感で、我々が出した提言に対してどのような答えなのか。子ども食堂の活動団体との意見交換会よりも前にしておいた方がよいのではないか。

<小川委員長>

11月もしくは12月で日程を調整したい。

<事務局主事>

再度執行部と調整する。

<議事調査係長>

執行部のスケジュールとしては、11月中旬以降に担当部から財政当局に予算を固めて提出するという流れだと思われる。その後には財政当局と主管課との間でヒヤリング等が行われ、1月末から2月上旬にかけて市長査定が行われ、3月定例会に当初予算を提案されるという流れになっている。ここからは推測の話だが、環境厚生常任委員会からの提言を市長や担当部課長は重く受け止め、担当部は予算立てを考えて市長に提案していくのではないかと考えている。担当課としては、執行部の長は市長であり、そのあたりの調整を進めていく必要があると推測できる。11月、12月に意見交換を行うことになれば、執行部としてどのように受け止め、考えているのかという話是可以するのではないかと考える。

<小川委員長>

どのような受け止め方をしているかについて意見交換できればと思う。1月以降ではなく11月、12月で調整させていただく。予算の関係や、できるかどうかは別として、お互いの思いを確認したい。

<馬場委員>

日程は複数日で調整願いたい。

<小川委員長>

日程については後ほど調整する。また、行政視察の実施等、今後の取り組みについての意見はあるか。

<平本委員>

亀岡市立病院について1年間取り組んできたが、その中で、以前、会派で和泉市の市立病院について視察を行った際に、指定管理により赤字から黒字に転換したという話を聞いた。皆がよければ視察を行ってはどうか。

<小川委員長>

皆の意見をいただきたい。

<齊藤委員>

和泉市で結構である。

<小川委員長>

視察に関しては視察を実施するのかどうか、また、実施するのであれば、目的や内容等の方向性を次回の月例常任委員会で決定したい。

<菱田委員>

亀岡市の場合は亀岡市立病院新改革プランに基づいて取り組んでいる。黒字化の目標を達成するために、議会としてどういう後押しができるのか、ということで視察を実施すればよいのではないか。亀岡市の場合は出足は鈍かったが、このところはいい感じで進んでいるように見受けられる。議会としても推移を見守りながら。和泉市の病院での取り組みを視察してはどうか。

<小川委員長>

予算の関係もあるため、病院についてのみ視察を行うことでよいか。

<酒井委員>

会派で実施された視察資料等を見た上で、現在の病院の運営形態の中でも取り入れられることがあるのかわかるところを見極めてからでよいと思う。また、月次レポートを毎月いただいているが、もうやめてもよいと思う。月次レポートを見ていると、経営戦略どおりに外来は減らし、入院は増え、収入が全体で6%ほど増えているということは数字に表れているが、それ以上のことが分からない。

<小川委員長>

視察については、既に平本委員が行った視察資料を見た上で次回の月例常任委員会で決定したい。もう1点、月次レポートについての意見はあるか。

<菱田委員>

月次レポートが提出されるようになった経緯は。

<小川委員長>

改革プランを立てる前だったと思うが、毎月の状況を知るために常任委員会から依頼した。

<酒井委員>

経営の状況が分かる資料をいただきたいということだったのだが、改めて資料をつくる手間がかからないように、普段利用しているものをそのまま出していただくということだった。本来はそれに係るコストや救急応需率なども出てくると思ったのだが、今のところ患者数や病床利用率だけなので、欲しかった情報より少ない。院長が変わり、改革プランを立てられて、それが反映されていることは確認できたので、これでよいのかなと思う。

<馬場委員>

業務の一環で出している資料であれば引き続き提出いただいた方がよいのではないか。

<酒井委員>

報告していただく機会は1年に1度しかないわけではないので、そこで確認できれば

よいと思う。月次レポートの内容では分析のしようがない。経営戦略がうまく機能していることさえ分かればよいのではないか。

<菱田委員>

例月の監査でも報告を受けているが、その中でも、よく頑張っているのが伝わってくる。月次レポートを要求する経緯をお聞きしたのは、市立病院が以前からそれをつくっていたかどうかは別として、それを議会に提出することにより、実行するためにポジティブに考えられるようになる1つのアイテムになったのであれば、議会から提案したことは有効だったと思う。しかし、委員会としてそれが必要かどうかは別の問題である。四半期ごとに報告してもらおう時間を持つなどの形に変えてはどうか。

<齊藤委員>

病院側の意識づけとして、出していただくことは大事である。こちら向けにわざわざつくっているわけではないので、このままでよいと思う。

<小川委員長>

月次レポートについては引き続き提出してもらい、内容が不足するであれば四半期ごとに報告してもらおうような形にしていきたい。

<酒井委員>

月次レポートを提出してもらい、それに加えて報告もしてもらおうということか。

<小川委員長>

四半期ごとに報告をしてもらってはどうか。

<酒井委員>

決算と予算の際に来ていただくので、それで足りるではないか。また、月次レポートはメールで送付いただくことにしてはどうか。

<小川委員長>

月次レポートはメールで送付いただくこととする。報告についても予算、決算の際にしっかり審査することとする。行政視察については次回の月例常任委員会で正式に決定する。

<平本委員>

会派視察の資料は委員長にお渡しする。

4 その他

<小川委員長>

意見交換会と次回の月例常任委員会の日程を調整したい。可能であれば同日に開催したい。

(日程調整)

<小川委員長>

次回の日程は12月1日とする。開催時間はコドモノミライプロジェクト@亀岡と調整して決定する。

<酒井委員>

次回の月例常任委員会までにしておくことを確認しておきたい。意見交換会については、子ども食堂関連の情報を事務局に送付すればよいのか。また、和泉市の視察資料について、各委員で去年の会派視察の報告書を見ておき、視察内容を明確にして委員会に臨まなければならない。また、「子どもの貧困対策に関する提言」に対する執行部の対応について、全体での調査はしないなど、既に答弁されていることがいくつかあるが、それらについて委員会としてどう考えるのかを次の月例常任委員会を出し合

えるようにしておかなければならない。また、委員会の中で話は出なかったが、委員会としてこのテーマを今後どのように深めていくのか。次年度以降のスケジュールも考えておかなければならないと思う。他には何かあるか。

<小川委員長>

意見交換会については、情報を事務局に送付願いたい。提言に関しては、定例会の会議録をごらんいただき、それを踏まえた意見交換ができるように準備いただきたい。行政視察については、去年の会派視察の資料を各自で見ておいていただきたい。今後の委員会の取り組みについては、計画を作成し、次年度につないでいきたいので、各自で調査をしていただき、次回の月例常任委員会でもとめていきたい。

<酒井委員>

子ども食堂関連の情報を事務局から各委員に送付してもらうのは、意見交換会の2週間前にはお願いしたい。

<小川委員長>

15日までに事務局に送付願いたい。集約した情報を20日頃に各委員に送付する。

散会 ～11:36